

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書（前期）

平成22年7月18日 作成

校長 白谷 恵子

記述者 職名（教頭） 古屋 宗久

学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- 知育 ・よく学び、よく考える子ども（自分の考えを持って）
- 徳育 ・思いやりのある子ども（相手の立場を考えて）
 - ・進んで働く子ども（働く喜びを持って）
 - ・あいさつのできる子ども（気持ちのよいあいさつを進んで）
- 体育 ・健康で元気な子ども（生活の中に運動習慣を）

学校経営方針

・今まで培った伝統と地域の特性や子どもの実態を踏まえ、特色ある教育課程を編成し、教職員の共通理解と、家庭・地域との連携の下、ゆとりと創意ある教育活動の推進に努め、21世紀をたくましく生きる力を持った、人間性豊かな子どもの育成を図る。

1 全体評価

【教職員の自己評価から】

・前回同様ほとんどの項目でAないしB評価であり、C評価がついたのはIV3「生き方教育を児童の実態に応じて行っている」V4「あなたは、PTA活動に主体的に参加している」の2項目だけであった。昨年の前期においてはC評価が12項目あったので、数値の上ではずいぶん改善されたと言える。

・A評価が10ポイント以上向上した項目数は、全51項目中13項目あり、反対にA評価が10ポイント下がったのは、12項目であった。

具体的に項目を見てみると、向上した項目は、II5「職員会議に積極的に関わっている」(+16)。III2「児童の学びの意欲を喚起する授業を行っている」(+21)。III6「教材教具や備品を活用した授業を行っている」(+26)。V3「教育活動について、たよりやHPを通して保護者や地域に広報している」(+18)。VI3「積極的に読書活動に取り組むよう指導に努めている」(+26)。VI6「外国語活動の充実にALTの活用による効果が上がるよう努めている」(+26)。等授業に関する項目での改善が見られた。

逆に下がった項目を見ると、I6「PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている」(-19)。II2「危機管理マニュアルを理解している」(-19)。II6「他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて教育活動を行っている」(-14)。II9「自らの分掌の課題を明確にし、改善に向けた取り組みに努めている」(-15)。V5「職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」(-24)。等、教職員の異動に伴う学校運営上の関わり方の違いから、このような結果になったと思われる。

○約半数の職員の異動があり、それに伴う数値の変化が見られた自己評価結果と言える。

【児童アンケートから】

・児童のアンケート結果については、おおむね前回と同様の結果であった。

・A評価が+5ポイント以上変化した項目は、6「先生はわかりやすく勉強をおしえてくれる」(+6)、9「もし困ったことがあったら、相談できる先生がいる」(+9)、23「委員会活動にしっかり取り組んでいる」(+15)の3項目であった。

反対に-5ポイント以上変化したのは、2「クラスに仲良く遊ぶ友達がいいますか」(-9)、11「宿題を忘れずにしていますか」(-6)の2項目であった。

○クラス替えや児童と新任職員との新たな関係も結果から想像できる。しかし、前回同様にD評価（そう思わない）を付けた児童が、どの項目にも1%～2%（人数で言うと4人未満）おり、その子に応じた継続した指導が必要と言える。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

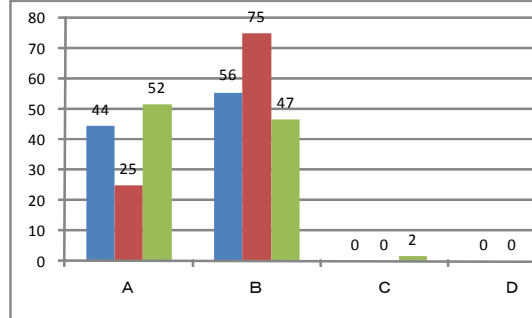
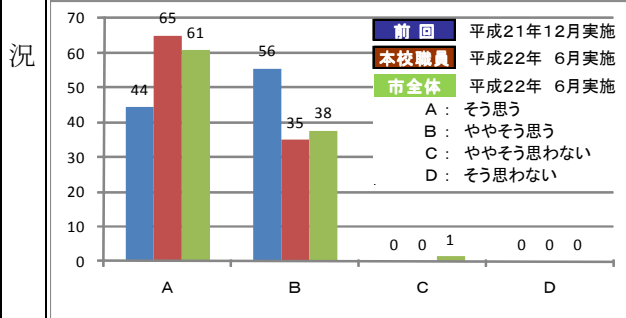
II 学校運営について

・新年度を迎えるにあたって、学校長より学校教育目標の提案が行われた。本校の実態を踏まえた上での提案で、校長の経営方針のもと見通しをもって具体的な取組が行われている。

・I-5「あなたの学校は、P D C Aサイクルで、教育活動が取り組まれている」
 I-6「あなたは、P D C Aサイクルを生かした教育活動を行っている」似たような質問ではあるが、5は「学校全体」を、6は「あなた個人」を聞いている。学校全体としては、A評価を下しても、個人としては、新しい職場に慣れないためか、消極的なB評価が多くなっている。（I-5とI-6）

I-5 あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。

I-6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている



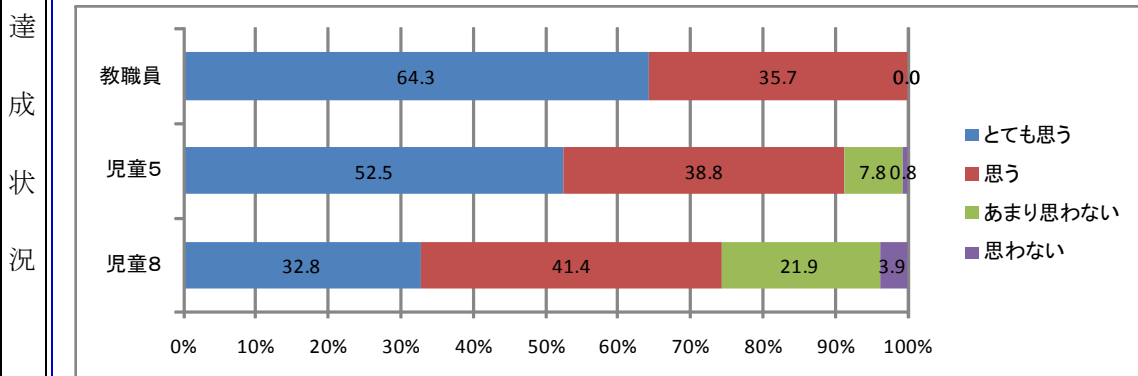
・今回の調査では、市全体の結果も載せてある。I-5「あなたの学校は、P D C Aサイクルで、教育活動が取り組まれている」では、市全体よりもA評価が多いのに対し、I-6「あなたは、P D C Aサイクルを生かした教育活動を行っている」では、19ポイントほど下回っている。A B評価を合わせた場合には差はないのだが、個人の教育活動においても、マンネリ化を防ぐためにより積極的にP D C Aサイクルを生かしていきたい。まずは、後期に向けて前期の反省をすることから始めていく。

III 学習指導について（児童用アンケートも含めて）

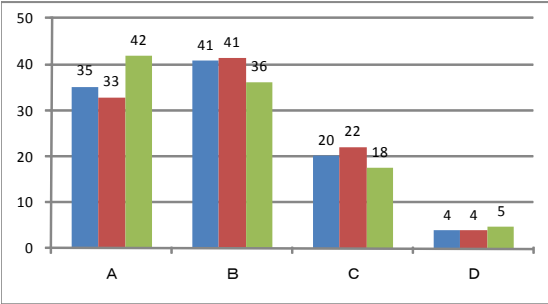
児童生徒の学びの意欲を喚起する授業(TⅢ-2, C-5, C-8)

	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
教職員Ⅲ2	64.3	35.7	0.0	0.0
児童5	52.5	38.8	7.8	0.8
児童8	32.8	41.4	21.9	3.9

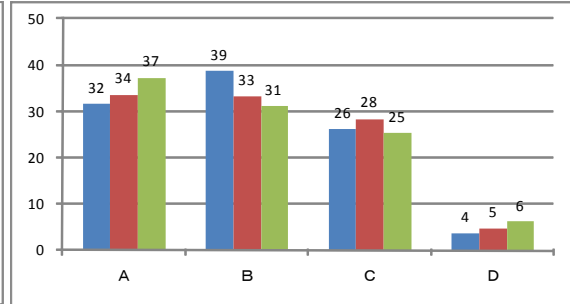
児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。
 学校の授業が楽しいですか。
 もし授業でわからないことがあったら先生に聞けますか。



C-8 もし授業（勉強）でわからないことがあったら、先生に聞けますか。



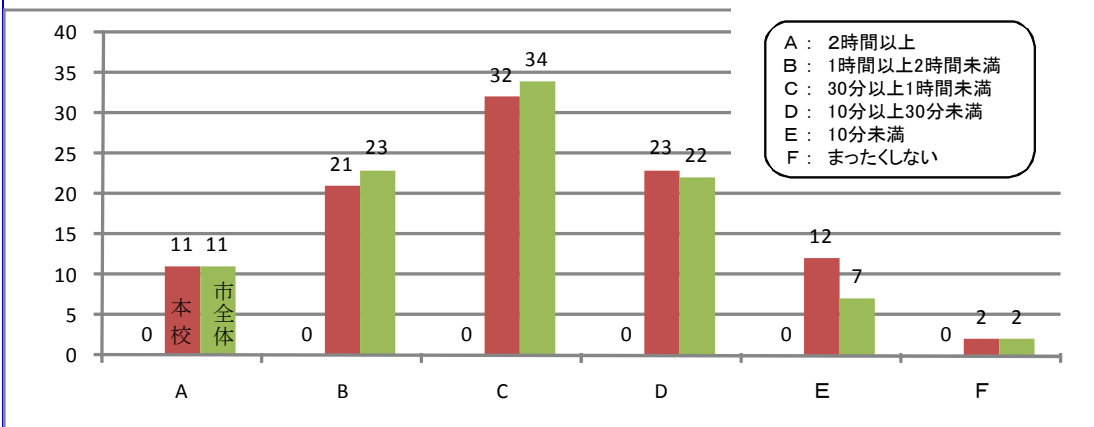
C-10 授業中に質問や意見をいっていますか。



前回	平成21年12月実施(調査対象257名)
今回	平成22年 6月実施(調査対象259名)
市全体	平成22年 6月実施(調査対象4347名)
A	とても思う
B	そう思う
C	あまりそう思わない
D	そう思わない

・教師と児童の相関グラフ「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業」を見ると、教師の64%が意欲を喚起する授業を行っているとしてA評価と回答している。A B評価を合わせると100%である。児童のC-8「わからないことがあったら先生にきけるか」C-10「質問や意見を言っているか」について、本校児童はA B評価を合計しても70%前後であり、市全体と比較してもやや低い回答である。

C-12 家では平日一日あたりどのくらいの時間、勉強をしますか。(塾を除く)



A	2時間以上
B	1時間以上2時間未満
C	30分以上1時間未満
D	10分以上30分未満
E	10分未満
F	まったくしない

・C-12「家での一日あたりの学習時間」を見ると、本校児童の場合「A：2時間以上」と答えた子の割合は、市全体と同じ11%であるが、BC評価は、市よりも低く、EF：10分未満～全くしないの割合は19%であった。約2割の児童が、家での勉強時間が10分未満という結果であった。(今回初めての項目なので継続して見ていこうと思います。)

改善策

・教師は、宿題や家庭学習に対する指導を行っているが、児童の結果から見ると十分とは言えない。宿題も含め課題の与え方、家庭学習の大切さをもう一度認識させる。
 ・学習の場面や学校生活全般においても、本校児童は受け身の姿勢が多く見られ、積極性に欠けると言われてきた。教師は、「学びの意欲を喚起する授業」を行っている。しかし、児童の学びの意欲を喚起するまでには至っていない。比較的少人数の学級が多く、ややもすると手をかけすぎてしまう傾向が見られるが、時には児童の考えが出るまで待つ姿勢やオープンエンドの授業、教えて考えさせる授業など、指導法の工夫をする。

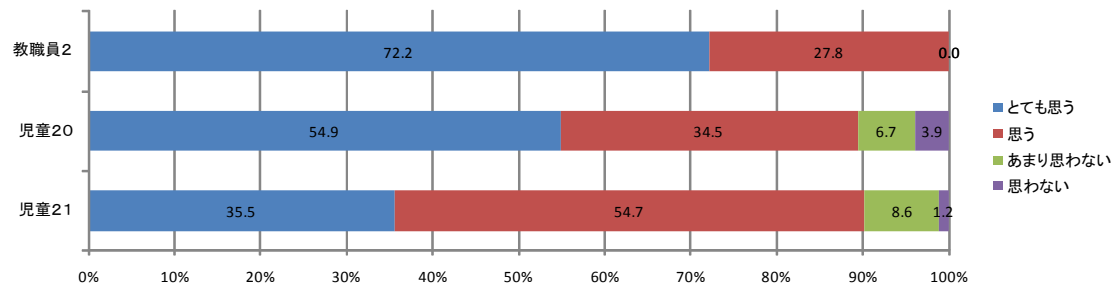
IV 生徒指導について（児童用も含めて）

規範意識をはぐくむ指導(TIV-2, C-20, C-21, C-22)

	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
教職員IV2	72.2	27.8	0.0	0.0
児童20	54.9	34.5	6.7	3.9
児童21	35.5	54.7	8.6	1.2

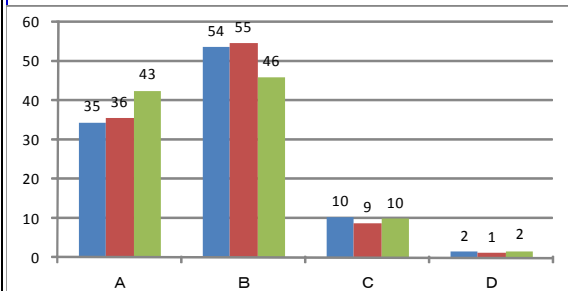
児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。先生から学校のきまりや約束ごとを守るように言われていますか？学校のきまりや約束ごとが守られていますか。

達成状況



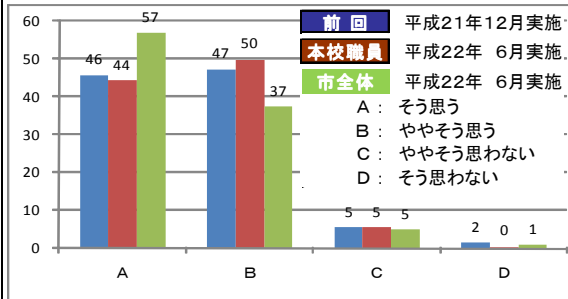
・ 相関グラフ「規範意識をはぐくむ指導」から、教職員は積極的に規範意識を育む取組を行っているが、児童の約10%が「決まりや約束を守れない」と回答している。
 ・ 教職員の生徒指導の項目では、ほとんどの項目でA評価+B評価が100%を示している。ただし、前回と比較するとA評価の割合は若干下がっている。

C-21 学校のきまりや約束ごとが守られていますか。

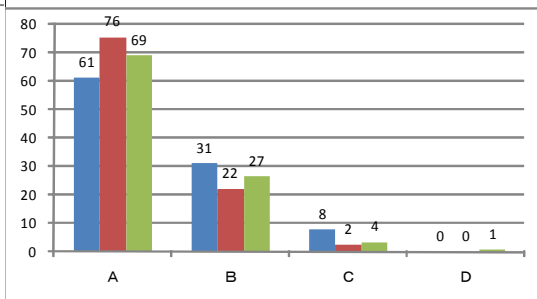


・ C-21 「学校のきまりや約束ごとが守られているか」本校児童の評価は、A B評価を合わせると90%で、市全体と変わりはないが、A評価だけ比較すると7ポイントほど低くなっている。C-22 「清掃活動がしっかりできているか」についても同様の結果となっている。

C-22 清そう活動がしっかりできていますか。



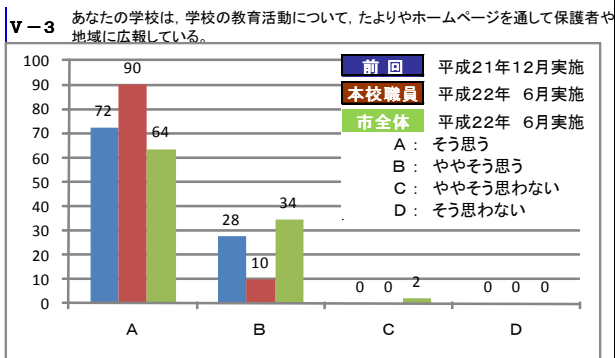
C-23 委員会活動にしっかり取り組んでいますか。※高学年のみ



改善策
 ・ 引き続き生徒指導校内委員会や特別支援教育校内委員会を定期的に関き、情報交換を行っていくことが大切である。
 ・ 規範意識に関して、教師の意識を変えていく必要がある。学校生活において比較的問題が少ないためか教師の指導の姿勢が控えめな感じを受ける。そのことが子ども達にも伝わっているのであろう。完全に決まりが守られているわけではないので、場面場面において、必要な指導は徹底して行わなければならない。
 ・ 清掃活動においては、児童のA評価が若干低い反面、委員会活動については、A評価が高い。作業の意味、掃除の仕方を丁寧に教えるなど働くことについての指導を段階的、計画的に行う。

V 地域との連携について

達成状況
 ・地域との連携の項目では、V-3「たよりやHPを通して広報している」について、自己評価ではA評価 90%と高い評価であった。HPをこまめに更新していることを評価した結果である。



改善策
 ・地区懇談会やPTAの会議、学年部会や家庭訪問、個別懇談などあらゆる機会で見守りや地域の意見を聞く。
 ・学校だよりやホームページを使って、学校の教育活動を地域や保護者に知らせる。なるべく更新回数を増やし、タイムリーな話題を載せる。また、親しみを持てるように内容をさらに工夫する。

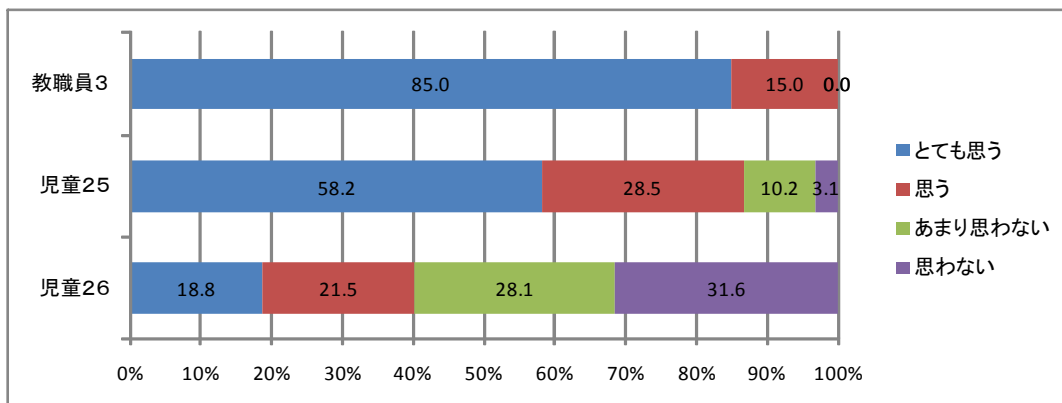
VI 学校の特色に関して (児童用も含めて)

C-11 読書指導(TVI-3, C-25, C-26)

	とても思う	思う	あまり思わない	思わない
教職員VI3	85.0	15.0	0.0	0.0
児童25	58.2	28.5	10.2	3.1
児童26	18.8	21.5	28.1	31.6

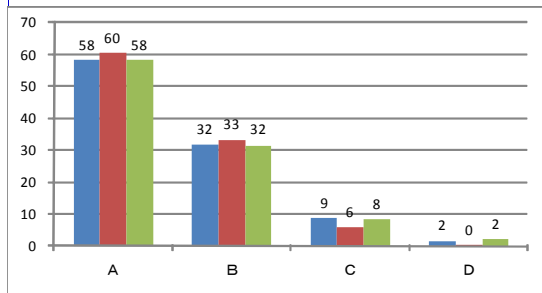
児童生徒が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。
 本を読むことが好きですか。
 親子で一緒に本を読むことがありますか。(「本を読んでもらう」も)

達成状況



・読書活動に関して教師は、読書指導を積極的に行っている。児童の読書に対する気持ちも前向きで9割の子は、「読書が好き」と答えている。

C-17 地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。



・C-17「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか」では、前回より若干A評価が増え、市全体よりもA評価・B評価が上回っており、あいさつ運動の成果があらわれている。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度より甲斐市の「国語力をつけるための読書活動事業校」の指定を受け、校内研究を中心にして、読書活動の推進に取り組んでいる。研究内容についてPTAの会議や懇談会などを使い、読書活動に対する学校の方針や研究結果などを知らせる。 ・図書だより等の一部を使い、保護者に対しての情報や意識改革のための資料提供を行う。 ・あいさつに関しては、大分改善されてきたので、引き続き大人が見本となるようあいさつ声かけ等を地域・保護者と共に協力して行っていく。
-----	---

3 まとめ

〈成果〉

・昨年度の評価を受けて、PDCAサイクルにのっとりCD評価のついたものを中心に具体的な改善策を立てた。それを意識し教育活動を展開していった結果、多少なりとも成果をあげることができた。一例をあげると、児童6「先生はわかりやすく勉強をおしえてくれる」(+6)、児童9「もし困ったことがあったら、相談できる先生がいる」(+9)などである。

〈課題〉

・学校規模に比べ、大きな職員の異動があり、評価結果に影響した項目が多々あった。特に15ポイント以上落ち込んだ項目は、I6「PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている」(-19)。II2「危機管理マニュアルを理解している」(-19)。II6「他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて教育活動を行っている」(-14)。II9「自らの分掌の課題を明確にし、改善に向けた取り組みに努めている」(-15)。V5「職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」(-24)。等に関しては、少なくとも前年度の水準まで引き上げるように改善しなければならない。上記に示した、改善策を日々の活動や授業で実践し、地道な積み上げを図っていくよう努力したい。

・本年度は意識して学校ホームページの更新回数を増やし「学校、学年便り」等各種たよりにおいても学校からの情報量を増やしている。保護者や地域の反応を見ながら欲しい情報を発信して行こうと思う。